

平成25年度

セント・ピーターズバーグ市派遣
高校生親善研修生報告書

平成25年7月19日(金)～8月5日(土) 18日間



公益
財団
法人

Takamatsu International Association

高松市国際交流協会

目 次

1. 日程	1
2. セント・ピーターズバーグ市派遣 高校生親善研修生滞在日程表	2
3. フォトギャラリー	3
4. 親善研修生 報告書 I	
高松市立高松第一高等学校2年 小野 綾花	
日誌・活動記録	5
感想文「国境を越えた絆」	14
5. 親善研修生 報告書 II	
香川県立高松西高等学校2年 高橋 健	
日誌・活動記録	15
感想文「絆になるということ」	22
6. 親善研修生 報告書 III	
高松市立高松第一高等学校2年 藤田 恵理子	
日誌・活動記録	23
感想文「新しい友達と新しい自分に出会った夏休み」	31
7. 親善研修生 報告書 IV	
香川県立高松高等学校2年 山本 育実	
日誌・活動記録	33
感想文「夢のような時間と一生の宝物」	40

日 程 表

7月19日(金) 19:35 高松空港発

20:55 羽田空港着

7月20日(土) 0:05 羽田空港発

----- 日付変更線通過 -----

7月19日(金) 18:20 ロサンゼルス空港着

22:40 ロサンゼルス空港発

7月20日(土) 6:29 タンパ空港着

8月3日までセント・ピーターズバーグ市でホームステイ

8月3日(土) 19:30 タンパ空港発

21:24 ロサンゼルス空港着

8月4日(土) 1:10 ロサンゼルス空港発

----- 日付変更線通過 -----

8月5日(日) 5:00 羽田空港着

7:20 羽田空港発

8:35 高松空港着

セント・ピーターズバーグ市派遣 高校生親善研修生 滞在日程表

日 時	場 所	内 容
7月20日(土)	タンパ空港	到着・ホストファミリーに直面
7月23日(火)	ダリ美術館 エッカード大学	施設見学 (現地連絡員による日本語ガイド)
7月24日(水)	サンケンガーデン	サンクスギビングパーティ
7月25日(木)	セント・ピーターズバーグ市役所	市長表敬・市議会見学
		現地国際交流員の方と交流
		コマーシャル撮影(広報活動)
7月30日(土)	アル・ラング・スタジアム	タンパベイ・ローディーズ(サッカー) 見学
	トロピカーナフィールド	タンパベイ・レイズ野球観戦
8月2日(金)	サンケンガーデン	施設見学
	セント・ピーターズバーグ高校	学校見学
	モレアンアートセンター	陶芸体験
8月3日(土)	タンパ空港	帰国・ホストファミリーとお別れ
7月21・22・26・ 27・28・29日、 8月1日	各所	各ホストファミリーと行動

St. Petersburg
Photo Gallery



タンパ空港に到着



ホストファミリーと対面



ダリ美術館見学



サンクス・ギビングパーティ



市長表敬



市議会見学



セント・ピーターズバーグ市役所でCM撮影



タンパベイ・ローディーズ山田選手と



タンパベイ・レイズ野球観戦



サンケンガーデンズ見学



セント・ピーターズバーグ高校見学



陶芸体験



クルージング体験



私達のアメリカの家族

親善研修生 報告書 I

I 書畫 坐觀獨善錄

日誌・活動記録

高松第一高等学校 2年 小野 綾花

7月19日(金)

今日いよいよアメリカに向かって出発。日本では体験できない素敵なことができるかと好奇心を胸に空港を出た。羽田空港からロサンゼルス空港までは長いフライトだった。機内ではあまり眠れず映画を2本見て、研修生の4人で楽しくおしゃべりをした。ロサンゼルス空港に到着して警官の人達が銃を見えるように携帯し、巡回している事や、様々な人種の人々がいて様々な言語で話しているのを見て日本とは違うアメリカの風土を感じた。来て早々トラブルが発生した。入国審査で藤田さんだけが別室に連れて行かれてしまった。いきなりでとても驚き、焦った。これからは常に4人で行動しないといけないと思った。お腹が空いていたのでマクドナルドに行き、一休みをした。注文の仕方が日本とは違っていたので戸惑ったが、近くの親切な男性が教えてくれた。タンパ空港に向けて出発。機内からの夜景はライトで明るく輝く街並みが美しかった。早くホストファミリーに会いたい、自分の英語がどこまで伝わるか少し不安になった。でも、一生に一度の経験になると思うので思いっきり楽しみたいと思う。

7月20日(土)

1週目のホストマザーのダイアンが空港に迎えに来てくれていた。一番にハグをしてくれて少し安心した。家はダウンタウンの中心に建つ大きなマンションだった。1週目のホストファミリーはホストマザーのダイアン、ホストシスターのベイリーとサラ、ブーという犬を飼っていた。私は犬が苦手なので不安になった。サラは今、ホストファミリーの所に泊まっているとの事だった。ダイアンの家に着いて、シャワーを浴びて2時間程休みなさいと言われたのに4時間も昼寝をしてしまった。昼食は外にホットドックを食べに行った。すごく大きくて驚いた。当然半分しか私は食べる事ができなかった。ダイアンがこのお店にあったTシャツを買ってくれた。その後はスーパーマーケットに行き、買い物をした。私が何か体を動かしたいと言ったら、マンションの住人専用のプールに連れて行ってくれ、30分程泳いだ。これから毎朝プールで泳ぐことを日課に決めた。シャワーを浴びた後、家で映画を見た。初めの映画は内容が難しすぎてよくわからなかったため、途中でハリーポッターに変えてもらった。音声も英語で、もちろん字幕も英語だったが、一度日本語で見たことのある映画だったので内容が大体分かった。英語を話すのが早くて字幕のほうに頼ってしまった。ベランダで夕食を食べていると、1人暮らししているホストシスターのベイリーとその彼氏のケーシーが家に来て、私にお菓子をくれた。アメリカの国旗や青い鳥などがカラフルにコーティングされたチョコレートだった。一緒に街に行ってブルーグラスというカントリーミュージックの演奏を聴いた。曲に合わせて踊ったり歌ったりしている人が何人かいた。日本ではあまり見ることのない光景なので少し驚いた。ケーシーは両腕にタトゥーを入れていて怖い印象だったが優しい人だった。二人と別れ、ダイアンと街を散策していると偶然2週目のホス



『ホストマザーのダイアンに對面』



『スカイラー、インディゴ、ノエルと私』

トファミリーに出会った。彼らもダウンタウンに住んでいるらしい。ホストブラザーのスカイラー、ホストシスターのインディゴ、ノエルは凄く可愛かった。ホストシスターの二人は私を見かけたときにすぐに飛びついてきたので驚いたけれど、同時に私のことを楽しみにしてくれているのだと思って嬉しかった。家に帰ったのは22時前後で、もう体力的にヘトヘトだったが、今日の出来事を忘れないうちにこの日記を書き終えてベッドに入って爆睡した。

7月21日(日)

ガラスのアート展を見に行った。“ヘアリーポッター”という髪の毛とハリーポッターをかけたアメリカンジョークの作品があつて面白かった。雷の写真があつたのでダイアンに“かみなり”という日本語を教えた。風鈴に似たガラスアートがあつたので、“ふうりん”という日本語も教えた。その帰りにザ・ショップという服屋で買い物をしたが、アメリカの服は大きすぎてなかなか私に合うサイズが見つからず困ったが、青と白色のラインの入ったショートドレスを買った。サンクスギビングパーティーで、そのドレスを着るのがとても楽しみだ。ピンク色の可愛らしい財布を見つけたので、悩まずそれも買ってしまった。今日はダイアンの友達シルビアの家で夕食を食べる約束をしていた。シルビアは昔バレエをしていた事もあり、伺う前にダイアンと私と二人でバレエの映画を見に行った。セリフが無かったので難なく見ることができた。シルビアはゴルフクラブの中にあるマンションに住んでいてとても広いお家だった。夕食にはダイアン、シルビア、そして二人の友人のボブとジムも一緒だった。シルビアの料理はとても美味しかった。とうもろこしのマフィンやソーセージ入りのリゾット、サラダを作ってくれた。目の前で調理しているのが見られて良かった。私が高校でダンス部に入っている話になり、どんなダンスをしているのかを聞かれた。ハウスというジャンルだけ説明することができず、ここで踊ってみてといわれ、ハウスを実際に踊った。ダンスが終わるとみんな拍手をしてくれ、喜んでくれた事が嬉しかった。みんなとても優しく楽しい時間が過ごせた。



『ボム、ジム、シルビアと夕食会』

7月22日(月)

今日はウィキワチに人魚ショーを見に行った。3時間の長いドライブだった。このことをアメリカでは“ロードトリップ”と言うらしい。昼食はマクドナルドで食べた。ウィキワチには多くの人が出た。ダイアンが、今年の夏でウィキワチは閉館してしまうことを教えてくれた。とても残念に思った。でも私は今年来ることができて幸運だったと思う。人魚ショーはとても感動した。2分間息継ぎなしで泳いだり踊ったりするのは体力がいる仕事だと思った。また目を開けたまま水中にいななければいけないということにも驚いた。私は幼



『人魚とツーショット』

い頃人魚になる事に憧れていたもので、もしここに住んでいて泳ぐことが得意だったらこの仕事に就きたいと思っていただろう。帰宅し、近くの公園まで愛犬のブーと初めてのお散歩をした。犬は苦手だったけれど、ブーはあまり吠えず、人懐っこい性格なので私は犬が苦手なことを克服することができた。公園ではたくさんの方がランニング、サイクリング、愛犬と散歩、スポーツを楽しんでいた。高松市にはこんなに大きな公共の公園がないのでとてもうらやましく思った。目の前にはすぐ海があり、私は幸運にもイルカを見ることができた。しばらく散歩をしていると、ホストシスターのベイリーから電話が掛かってきた。夕食を近くのレストランで一緒に食べることになった。私はシェパードパイと言う挽肉のソースの上にマッシュポテトがのったイギリスの郷土料理を食べたのだが、やはり量が多く全部食べることができなかった。会計士をしているベイリーに日本語で自分の職業を何というのかを聞かれ、“わたしは、かいけいしです”と教えた。弁護士のダイアンには“わたしは、べんごしです”を教えた。他には“いただきます”、“ごちそうさま”、“たのしい”、“かぞく”という日本語を教えた。二人ともリズムに乗せながら日本語を楽しそうに言っていた。この日、ベイリーは折り紙で鶴の形を折った銀色のネックレスをつけてきていて凄く可愛かった。



『ブーと私』

7月23日(火)



『ドンセザールホテル前のビーチ』

ダリ美術館に行った。日本人のキャシー・プランタムラさんが絵の説明をしてくれた。ダリの作品は日本語で説明をしてもらってもそれぞれの絵に深い意味があって理解するのが難しかった。彼が歳を取るにつれて画法が変わるのも興味深かった。私達研修生のお気に入りの作品は、リンカーンの絵で、お土産にリンカーンのポストカードを買いたかったのに、売り切れで買えず残念だった。そしてエッカード大学の見学に行った。大学は広大な敷地にあり、緑豊かで池があちらこちらにあった。雨の日にはワニがやってくることもあるらしい。キャシーさんのおかげで受付の人から留学生の話がたくさん聞いた。エッカード大学は留学生を快く受け入れてくれる大学で、寮の設備も充実していた。自分の英語のレベルに合わせてクラス分けもしている。自分の留学意志がより一層高まった。研修生の4人で大学の夏休みにここに留学する約束をした。その後、ドンセザールという高級ホテルにも行った。砂浜が眩しすぎてサングラスなしでは目が開けられなかった。真っ白な砂浜とマリンブルーの海の前にピンク色のホテルが建っているの、ここだけ別世界にいるような感覚だった。外国の海の美しさに感動した。

7月24日(水)

研修生の藤田さんと彼女のホストシスターのマヤとミカの4人でサマーキャンプに行った。持ち前の明るさで、私はすぐに打ち解けることができ、一緒にダンスをしたり歌ったり楽しく話をした。サマーキャンプにいた子供達は、みんな年上に見えたので年齢を聞いた時は驚いてしまった。昨夜ホストマザーと一緒に見た映画の歌“カップソング”の英語の歌とカップの仕方をサマーキャンプに来て

いた子供達に教えてもらった。カップや手を叩いたり、持ち手を変えたり、英語で歌いながらリズムを取るのがとても難しく、藤田さんと二人で何度も練習をした。なので、マスターした時の達成感は大きかった。夕方にサンクスギビングパーティーがあったが、ホストマザーの送迎が遅れてしまい、予定時間を30分以上遅らせてからパーティーが始まった。時間にルーズなところが気になった。でも、パーティーは本当に楽しかった。私達研修生の全てのホストファミリー、セント・ピーターズバーグ市長、セント・ピーターズバーグ市のサンコースターズ親善研修生をはじめ、たくさんの方が集まり、各家族が料理を持ち寄ったバイキング形式のパーティーだった。先日ダイアンとショッピングに行っておいたドレスを着ることができて私は大満足だった。



『サマーキャンプのみんな』

7月25日(木)



『ポップダルマの説明』

今日はずっと前から緊張していたセント・ピーターズバーグ市議会でスピーチをする日だった。スピーチをし終えた後もほっとする暇もなくコマーシャル撮影があった。詰まったり笑ってしまったりして何回も取り直しをした。文章も数分で暗記しなければいけなかったのが大変だった。市長表敬では高松から預かっていたお土産の讃岐一刀彫りのポップダルマを渡した。私は英語でその説明をした。少し緊張したが、市長さんが、カラフルなダルマを気に入っている様子だったのでほっとした。帰宅して、今日は味噌汁とおにぎりを作る予定だったので急いで調理に取り掛かった。日本から味噌や粉末のだしを持参していた。アメリカでも豆腐を売っていたので日本で作るのと同じように作れた。ホストシスターのサラとベイリー、ベイリーの彼氏のケーシーが夕食に来てくれた。ダイアンのお家に割り箸があったので、皆お箸で味噌汁を食べた。おにぎりより、海苔の方が人気だったことに少し驚いた。味噌汁をかなり気に入ってくれたのが嬉しかった。

今日はずっと前から緊張していたセント・ピーターズバーグ市議会でスピーチをする日だった。スピーチをし終えた後もほっとする暇もなくコマーシャル撮影があった。詰まったり笑ってしまったりして何回も取り直しをした。文章も数分で暗記しなければいけなかったのが大変だった。市長表敬では高松から預かっていたお土産の讃岐一刀彫りのポップダルマを渡した。私は英語でその説明をした。少し緊張したが、市長さんが、カラフルなダルマを気に入っている様子だったのでほっとした。帰宅して、今日は味噌汁とおにぎりを作る予定だったので急いで調理に取り掛かった。日本から味噌や粉末のだしを持参していた。アメリカでも豆腐を売っていたので日本で作るのと同じように作れた。ホストシスターのサラとベイリー、ベイリーの彼氏のケーシーが夕食に来てくれた。ダイアンのお家に割り箸があったので、皆お箸で味噌汁を食べた。おにぎりより、海苔の方が人気だったことに少し驚いた。味噌汁をかなり気に入ってくれたのが嬉しかった。



『サラ、ベイリーに日本食をごちそう』

7月26日(金)

今日はダイアンとホストシスターのサラとインターナショナルプラザという大きなショッピングモールに行った。サラと一緒にいろんな店を回った。同い年のサラが自分のクレジットカードで支払いをしているのを見たり、自分で運転してここに来たと聞いて、日本の私達にはまだ許されていない事がもう許されている事に驚いた。同じ17歳でも大人に見えてしまう。夜にダイアンの友達が運営

しているジャズコンサートに行った。行く前にダイアンに薦められて髪の毛を切りに行った。アメリカの美容院は日本と接客の態度が違うなと感じた。日本では髪を切ってもらっている間、美容師さんと会話をしたりするが、こちらではなかった。設備も少し違っていた。コンサートにはシルビアも一緒に行ったのでまた会えてよかった。私にネックレスをプレゼントしてくれた。初めてのジャズコンサートの雰囲気には最初は戸惑ったけれど、だんだん慣れてきて、最後のほうになると曲ののって踊っていた。コンサートに来ている人はみんな楽しそうに踊ったり、手拍子をしたりして雰囲気でも楽しむことができた。

7月27日(土)



『クルージングにてソロモン』

今日はホストファミリー交代の日。最後の日だったので、早起きしてダイアンの友達が働いているカフェに朝食を食べに行った。家に戻るとホストシスターのサラが帰っていたので、最後に挨拶ができた。犬が苦手だった私もブーのおかげで犬が好きになって触れるようになった。ダイアンは数日後にイギリスに行ってしまうので、今日で会うのは最後だった。私は大泣きした。ダイアンと帰国の時に空港で会うことができないので本当に悲しかった。その後の昼食中も気分が沈んでいたが、タンパベイ・ウォッチで船に乗った時には気持ちを切り替えて思いっきり楽しんだ。何度もイルカを見ることができた。波風が心地よく爽快だった。昨年度の親善研修生で高松に来ていたソロモンとヘイデンともたくさん話すことができた。メガネを掛けているソロモンにコンタクトにしないのかと聞くと、目に何かを入れるのが怖いからと言って面白かった。私はコンタクトだというと、すごく驚いていた。パーティーにはいかにもアメリカらしいカラフルな色のケーキがあった。見た目はあまり食欲をそそられなかったが、味は美味しかった。新しいホストファミリーは3人の子供がいる家庭だった。ホストマザーのジュールは芸術家、まだ小さいのに紳士的で妹想いのスカイラー、しっかり者のインディゴ、おちゃめなノエル。ダリ美術館に行った際に時間が無く行けなかったスカイブリッジにホストマザーが連れて行ってくれた。橋の中心に近づくにつれて道路の角度が急に見えた。中心に到着した時に後ろを振り返るとほぼ垂直に車が走っているように思えた。柱が黄色に塗られていて遠くから見ても目を引く橋だった。そしてその後、市民プールに行った。プールの端の方の底が水深2m以上の深さがあったのですごくびっくりしたし、怖かった。ホストブラザーのスカイラーと泳ぎの競争をしたり、水の掛け合いやキャッチボールなどをした。男の子だったから打ち解けられるか不安だったけれど、すぐに仲良しになれたので嬉しかった。夜になるとスクリーンでプールに入ったまま映画を見て楽しんだ。ホストシスターのインディゴは、潜りの技を披露してくれた。ノエルはまだ小さくて足がプールにつかないのに全く怖がらず、インディゴと同じように技を見せてくれた。私はノエルが溺れないか心配だった。16時から22時までずっとプールにいたのでとても疲れた。子ども達はまだまだ元気だったが、私はもうそのテンションについていけず、とても疲れた。家に着くとスカイラーが私のスーツケースを一人で部屋まで運んでくれた。すごく重いから一人じゃ無理だよと言ったけれど僕が運ぶと聞かなかったのでお願いした。

7月28日(日)

今日は念願だったディズニーワールドにホストファミリーと一緒にいった。私はディズニーが大好きなので行くことができて本当にうれしかった。入場ゲートで指紋認証をされたことに驚いた。セキュリティーが厳しいと思った。まずスペースマウンテンにスカイラーと二人で乗った。思ったほど怖くなくて、私が絶叫系は平気だと言うとスカイラーが喜んでくれた。私はお土産にバッジを買った。ホストマザーがそのバッジはディズニーランドでキャストと言う、働いているスタッフの人達のものとの交換することができるかと教えてくれたので、それをキャストの人と交換した。途中でソロモン、ヘイデン、研修生の山本さん、高橋君と合流して一緒にまわった。ディズニーワールドは人が



『念願のディズニーワールド』



『ディズニーワールドのパレード』

多かったが、敷地がとても広く、人が分散していて乗り物の待ち時間が大体60分前後だったのでスムーズに乗ることができた。でも悪天候になってしまったので自分の乗りたかった外のアトラクションに乗れなかった事がすごく残念だった。お土産屋さんで研修生4人おそろいのストラップを買った。山本さんと高橋君のホストファミリーは夕食の為に帰ってしまったが、私のホストファミリーは22時までいた。ディズニーワールドは本当に夢の国だった。子供から大人まで誰もが一緒に楽しめる場所だと思う。本当に楽しかった。

7月29日(月)

朝は遅く起きて午後までのんびり家で過ごした。最近は毎日慌ただしく忙しい日が続いていたので久しぶりにゆったりと過ごせて疲れも取れた。昼食につけうどんを作った。うどんは持参していたので作るのは簡単だった。気に入ってもらえるか心配だったが、みんなおいしそうに食べてくれた。家にお箸があったのでお箸を使って食べることにした。ホストマザーは日本に行ったことがあるのでお箸の使い方がとても上手で驚いた。スカイラーは悪戦苦闘していて、最後には諦めてフォークで食べていた。インディゴは割りばしを輪ゴムで結び使いやすいうように工夫をしていた。ノエルは、うどんをこぼしながらも楽しそうに食べていた。夕方はソロモンの家でパーティーがあった。プールで泳いだり、ソロモンとヘイデンからスラングをたくさん教えてもらったりした。今年度親善研修生として高松に来ていたティエンとキャサリンにも、アメリカに来てようやく再会することができた。高松で会った時は、あまり話しかけられなかったが、ここではたくさん話す事ができたので、すぐに仲良しになれた。アメリカの雰囲気のおかげだと思う。私はアメリカの陽気になれる開放的な雰囲気が好きだ。

7月30日(火)

午前中にタンパベイ・ローディーズというサッカーチームの見学に行った。日本人選手の山田さんとお話をした。チームのメンバーは国籍が様々なのでコミュニケーションをとるためには英語が必要不可欠だと言っていた。サインを貰えてよかった。夕方にタンパベイ・レイズの野球観戦に行った。試合が始まる前にティエン、ヘイデン、高橋君と一緒にご飯を食べた。東京の高校に通っているという外国人の女の子に話しかけられた。日本語がすごく上手だった。私も彼女が日本語を話すのと同じ位、英語が話せるようになりたいと思った。モールで買ったレイズの帽子と4人おそろいのシールを顔に貼って応援をした。ビップルームで見ることができたので、びっくりした。途中でセント・ピーターズバーグ市のカメラに今日の試合で一番楽しみな事は何か?とインタビューをされて緊張したが、勝敗が気になりますと答えた。タンパベイ・レイズのチームのスコット選手がヘイデンに似ていたの、私達は特にその人の応援を頑張った。雷の影響で試合が中断してしまった。でも、その間に流れていたアニメがとても面白くて、私達はずっと笑っていた。その日の試合はタンパベイ・レイズが勝ったので、すごく嬉しかった。野球の試合にこんなに興奮したのは初めてだった。帰り道、車に乗ろうとしているときに、お金をくださいと突然ホームレスの人がホストマザーに近づいてきたことに驚いた。



『タンパベイ・レイズ試合観戦』

7月31日(水)



『私の2人のホストマザー』

私のホストファミリー、藤田さん、山本さん、高橋君、ソロモンでボーリングに行った。ソロモンはストライク連続で、すごく上手だった。2ゲーム目はチーム戦にしてソロモンとペアを組んだ。残念ながら私達の負けだった。その後、みんなとダウンタウンに行き、ジェラートを食べ、その後近くのビーチに行った。裸足で砂浜を駆け巡ったので足の裏が熱かった。そしてダウンタウンにあるビルの屋上に行った。高いビルだったので町全体を一望できた。真っ直ぐな道、緑あふれる街、青い海、山がないので広大な土地を見ることができた。その後、寿司屋に行った。日本の寿司とは異なっていて、海苔の上から、さらにご飯が巻かれていた。わさびも刺身しょう油もあり、そしてお茶があったことに一番感動した。毎日、水かコーラか、味の濃いジュースばかりだったので久しぶりにお茶が飲めたことが、すごく嬉しかった。近くに私の1週目のホストマザーのダイアンが住んでいたの、ホストマザーのジュールが、わざわざ呼んでくれた。もう会えないと思っていたのでサプライズをしてくれて本当に驚いた。もう一度最後に会えて嬉しかった。その後はセーリングパーティーがあった。ボートが上下に激しく揺れたので少し



『楽しいセーリング』

怖かったけど同時にすごく面白かった。ソロモンとヘイデンに英語の早口言葉を教えてもらった。私の発音が下手だったらしく何回も笑われたので、発音の仕方についても教えてもらった。私達は日本語の早口言葉を教えてあげた。ソロモンは日本語が上手なので、すぐにマスターできていた。

8月1日(木)



『ビーチでケイリーと昼食』

今日はビーチに行った。サンコースターズ研修生の人達も来てくれた。仲良しになったケイリーにも会えた。残念ながら私は泳げなかったけどソロモンとヘイデンとビーチパラソルの下でたくさん話ができ良かった。ヘイデンが持ってきていたスーツケースを改造して作ったラジカセがかっこよかった。もし日本だったら目立って周囲の目を気にすると思うが、アメリカはそんなの誰も気にしない様子でとても自然だった。私はアメリカのこういうところが好きだ。夜はソロモンの家で同世代が集まってパーティーをした。ソロモンとヘイデンが地元の友達を呼んでくれて、にぎやかなパーティーだった。そこでも女子達の話は世界共通なのか、大いに盛り上がった。恋愛話やハグなどスキンシップについての話などたくさん語り合った。12時過ぎまではしゃいで遊んだ。時間が過ぎるのがあつという間だった。やっぱり同世代の人と話すのはすごく楽しい。一番印象に残るパーティーだった。

今日はビーチに行った。サンコースターズ研修生の人達も来てくれた。仲良しになったケイリーにも会えた。残念ながら私は泳げなかったけどソロモンとヘイデンとビーチパラソルの下でたくさん話ができ良かった。ヘイデンが持ってきていたスーツケースを改造して作ったラジカセがかっこよかった。もし日本だったら目立って周囲の目を気にすると思うが、アメリカはそんなの誰も気にしない様子でとても自然だった。私はアメリカのこういうところが好きだ。



『親善研修生集合』

8月2日(金)



『サンケンガーデンでミンディーと』

サンケンガーデンに行った。そこは植物園で日本庭園もあった。オウムのミンディーに会った。自分の腕に乗せてみると意外と重たかったのでびっくりした。“ハイ、ベイビー”と話すのでとても可愛かった。植物園の説明をしてくれたガイドの人の話すスピードが速すぎて、なかなか聞き取れず困っていると、ティエンが聞き取れなかった所を分かりやすく教えてくれた。ソロモンとヘイデンとティエンが通っていたセント・ピーターズバーグ高校に行った。日本の高校とは比べものにならないくらい大きくて広かった。グリーンデビル(緑色の悪魔)が高校のシンボルマークなので至る所にこのマークがあってロッカーや壁は緑色でいっぱいだった。とても広くて設備の整ったホールがあったので、こんなところで踊りたいなと思った。運動場にはフットボールコートがあった。初めて見るその大きさに驚いた。日本ではこれほど広い高校はないと思う。アメリカの高校に通いたいと思った。授業も15時までで部活もなくバイトをしたり、パーティーをしたり、車で出掛けたりできるなんて羨ましい。

サンケンガーデンに行った。そこは植物園で日本庭園もあった。オウムのミンディーに会った。自分の腕に乗せてみると意外と重たかったのでびっくりした。“ハイ、ベイビー”と話すのでとても可愛かった。植物園の説明をしてくれたガイドの人の話すスピードが速すぎて、なかなか聞き取れず困っていると、ティエンが聞き取れなかった所を分かりやすく教えてくれた。ソロモンとヘイデンとティエンが通っていたセント・ピーターズバーグ高校に行った。日本の高校とは比べものにならないくらい大きくて広かった。グリーンデビル(緑色の悪魔)が高校のシンボルマークなので至る所にこのマーク



『私のアメリカの親友』

また、アメリカの高校には自分のロッカーがあったので、い

いなと思った。以前日本のテレビで見たアメリカの高校の映画とそっくりだったので、感動した。その後、陶芸教室に行った。ろくろを使ってお皿を作った。思い通りに形が作れなくて苦戦した。私が自分の携帯を置いてトイレに行っている間にキャサリンが勝手に私の携帯を使って何枚も自撮りや面白い写真を撮っていて、携帯のホーム画面が変わっているのを見てびっくりした。ティエンとキャサリンのお気に入りの日本語は“もしもし、はいはい”と“ばんざーい、ばんざーい”で、頻繁に使っていた。二人ととても仲良くなれたと思う。ティエンとキャサリンは私にとってアメリカの親友。会う時はいつでも一緒に話をした。国境を越えた大切な友達ができた。

8月3日(土)



今日はセント・ピーターズバーグ市滞在最終日だった。まだ帰りたくない、ずっとここに居たい、みんなと別れたくないと思った。朝食は4人の研修生の全てのホストファミリー、ティエンやキャサリン、セント・ピーターズバーグ市役所のエリザベスやキム等たくさんの人達と一緒にレストランに食べに行った。ソロモンにセント・ピーターズバーグ市に来て楽しかったこと、困ったこと、日本との相違点共通点などたくさん質問をされた。英語での会話にも十分に慣れてきてスムーズに話せた。初日の頃よりは成長したなど感じた。私はミドルネームがほしかったので、皆に考えてもらった。My name is Ayaka Felicia Ono. Felicia(フェリシア)というのはHappy(幸せ)と似た意味だそう。作ってもらえて本当に嬉しかった。山本さん、藤田さん、高橋君も同様にミドルネームをつけてもらっていた。なのでソロモン、ヘイデン、ティエン、キャサリンには日本語の漢字の名前を作った。ティエンには‘亜綺’、キャサリンには‘朝花’と作ると喜んでもらったので良かった。その後、藤田さんのホストファミリーの家に行って遊んだ。ティエン、キャサリンと話をして楽しかった。空港でお別れをするときに絶対泣くと思ったので、朝食の時にたくさん写真を撮った。でも、意外な事に私だけ全く泣かなかった。自分でも不思議なくらいびっくりした。最後に笑顔でお別れができて良かった。皆と最後に何度も何度もハグをして別れた。楽しい時間をありがとう。私は一生の宝物となるような日々を過ごせた。

See you St.Petersburg. I will come back soon.



『ソロモンとヘイデンと一緒に』

感想文



高松第一高等学校 2年

小野 綾花

国境を越えた絆

このような素晴らしい機会を私達に与えてくださり、本当にありがとうございました。言葉では言い表せないほどの感謝の気持ちでいっぱいです。

セント・ピーターズバーグ市でホームステイを体験して自分の視野が格段と広がりました。日本では経験できない素晴らしい体験がたくさんできました。話すと言葉が止まらなくなるほど私にとっては濃い経験となりました。これをきっかけに大学への進路を決断することもでき、大学在学中に留学したいという気持ちがより一層強いものとなりました。

私は英語が大好きですが、得意ではありません。でもアメリカでは積極的に話し掛け、コミュニケーションを取ろうと頑張りました。単語が出てこなかった時は他の研修生に助けを求めたり、ジェスチャーを使ったりして会話をしていました。みなさん私の英語を一生懸命理解してくれていましたが、自分の伝えたい事を全て正確には伝えられませんでした。もっと語彙力をつけなければならないと痛感しました。

自分の積極性と英語力が合わせられたらもっと会話もスムーズにでき国境を越えた友達の輪も今よりもさらに広がるのではないかと思います。実際にホームステイをして英語の必要性を本当に感じました。空港で働いている日本人スタッフや国際結婚をされた人からアメリカについて生活の事、仕事、文化等色々なお話を伺うことができ、外国に対する憧れが膨らんでいます。それと同時に日本の素晴らしさにも改めて気づくことができました。

日本と外国の相違点共通点は、たくさんあります。でもそこをお互いに理解しなければ異文化理解はできないと思います。私は今後も留学等で海外での生活を体験し、現地の人と深く交流をしたいです。

今回の親善研修で、私は多くの人に出会い友達になりました。彼らとはフェイスブックなどを通して、これからもずっと繋がっています。今でも毎日のようにメッセージを送り合ってコミュニケーションを取っています。将来、彼らと再会できることをとても楽しみにしています。

親善研修生 報告書 Ⅱ

II 書目録 地籍部彙編

日誌・活動記録

高松西高等学校2年 高橋 健

7月19日(金)

高松空港に見送りに来てくれた家族と友達と別れてからは、研修生4人だけの旅になる。今日はまだ緊張していない。機内では4人で色々な話をした。考えてみればまだお互いの事をよく知らない。これからの2週間、共に行動する事もあるので、仲良くなりたと思う。アメリカに着くまでの間、なるべく眠るようにした。

7月20日(土)



『レベッカと一緒に』

あの長いフライトから解放され今日からアメリカの生活が始まった。朝6時半にタンパに着いてセント・ピーターズバーグ市役所のエリザベス、キム、そして1週目のホストファミリーのキャスファミリーと2週目のグラントファミリーと会った。みんな温かく自分を受け入れてくれた。キャスファミリーは5人家族で、ホストファーザーのローレンス、ホストマザーのレイナは、二人共整形外科の病院で働いていて、長男のジョナサン、長女のキャサリン、次女のレベッカだ。キャスファミリーの家は大豪邸だった。着いてすぐ少し休んでもいいと言われたので、部屋に入って荷物を取り出した後、仮眠をとった。仮眠のつもりだったが、だいぶ寝てしまっていたようで、

起きた時は昼過ぎだった気がする。夕食はピザを食べに行った。ピザを食べた後ボウリングへ行った。アメリカでは、よく家族や友達と一緒に行くらしい。1ゲーム目はすごく盛り上がったが、2ゲーム目はもうみんな少し疲れているようだった。夜、家に帰って思ったのは、自分が考えていたより英語が通じるということだ。自信がなかったわけではないけれど思ったよりもスムーズに会話ができる。ただ、なんにでも Good と言ってしまったり、Yes, No をはっきり言わないといけないな、とも思った。寝る前に見たテレビのコマーシャルできれいなブロンドの女性が髪を黒く染めていたのが印象に残っている。日本ならば黒髪を明るい色に染めるコマーシャルをよく見るので「そうか、もうここはアメリカなんだ」と思いながらこの日は眠りについた。



『ボウリングへ』

7月21日(日)

今朝は時差ボケで朝5時に目が覚めた。それから朝食までの間、家でゆっくりしていると、ホストファーザーのローレンスが呼びに来て、「もう着替えた？」と聞かれ、アメリカの朝食はきちんとした格好じゃないといけないのかなと思いながら車に乗った。レベッカの家では週末の朝食は外食をす

るらしく、自分の行った彼らの行きつけのお店にはもう15年も通っているらしい。朝食は、とてもおいしかったが、どうもろこしを粉末にしたもので作るお粥のようなグリッツという料理は口に合わなかった。アメリカの接客は素晴らしいと思った。行ったお店やハイウェイの料金所での対応の時、きちんと相手の目を見て心の通った会話をする。日本のように『仕事でやっていて、ただマニュアル通りにしています』という感じではない。ここにアメリカの文化の良さを感じた。午後は家のボートに乗って、海へ行き、ウェイクボードを体験した。何度も挑戦したかったが、自分では気付かないうちに腕や手を使っていたようで、ボートに上がれないくらい疲れていた。その後はボートに乗ってビーチへ戻り、思い出に砂を取った。その帰りにはボートの運転をすることが出来た。風を切って、海を裂くようにボートを操縦するのは、本当に楽しかった。家に帰って少し仮眠をとり、起きた頃にはもうパーティーが始まっていた。こちらに来て自己紹介をされる時、英語が聞き取りにくく誰が誰だかわからないことが多かった。料理を外で食べながらパーティーに来ていた10代の人々と話をした。彼らが自分に話しかけてくれた時には話すことが出来たが、話に入りたいと思った時、彼ら同士の会話はとても早く何を話しているのか分からなかった。会話の中で日本のことについて少し聞かれたので答えたが、十分ではなかった。前に新聞で『日本人が英語を話すのが下手なのは話す内容がないからだ』というのを見たことがあるのを思い出した。全くその通りだと思った。そんなことを思いながらこの日は就寝。



『アメリカの朝食』

7月22日(月)



『チーズケーキでハッピーバースデー』

今日は昨日に比べるとゆったりとした日だった。自分が起きたのは8時頃だったが、ホストファミリーはみんな11時頃に起きてきたので、一緒にブランチを食べた。午後はレーナとキャサリンと3人でダウンタウンを見に行った。車に乗ったまま町をゆっくり走って、レーナが色々と説明してくれた。アメリカの家は、大きいものが多かった。フロリダは特に大きくて豪華な家が多いらしい。昼食はギリシャ料理を食べた。ここで出てきたバターをレーナが自分に投げて渡してきた。アメリカでは物を投げて渡すことに悪い意識がないらしい。家や車の中で足を上げているのも同様のようだ。夜は空港にレベッカを迎えに行った。ホストシスターであるレベッカは、実は3年前、親善研修生として高松に来ていた際、自分の家族が彼女のホストファミリーだった。それ以来ずっと会っていなかったので、本当に久しぶりに会えてうれしかった。やはりレベッカと話すのが一番楽しい。年が近いからだと思う。7月の誕生日にケーキを食べたなかったと話すので、自分の大好物のチーズケーキを食べに行こうということになり、チーズケーキファクトリーというレストランでディナーを食べた。すぐ横にショッピングモールがあったのでそこを歩きながらお土産に何を買いたいのかを伝えた。きちんと伝わったのが嬉しかった。家に帰ってすぐ就寝。

7月23日(火)



『まぶしいくらいの砂浜』

今日もまたゆっくりとしたスタートだった。朝ごはんはピーチヨーグルトとアップルジュース、そしてヨーグルトとナッツを混ぜたようなものを食べたがそれは口に合わなかった。朝食の後、レベッカの車に乗ってダリ美術館に行った。ダリなんて名前しか知らなかったが、興味深い絵が多くて楽しかった。特に印象に残ったのはリンカーンの絵だ。近くで見ると、遠くで見るとは、まるで違うように見えるのが不思議だった。その後、空港で昼食をとった。親善研修生の3人と久しぶりに日本語で話すのが楽しかった。この後ドンセザールという有名なホテルへ行った。外観はきれいなピンク色で周りのどの建物よりも目立っていた。ホテルの前のビーチの砂は真っ白で驚いた。この日は、家に帰って家族団欒を楽しんで就寝。

7月24日(水)

もう5日も経ったのかという感じがする。今日は朝食後、レベッカとショッピングに行った。一つ目に行ったところは大きなお店だった。そこでお菓子和ブレスレットを買い、次のお店でみんなのお土産を買った。時間が掛かったので、レベッカに申し訳なかった。アメリカの物はなんでも色がハッキリしていてカラフルだ。物に限らず、食べ物、家、すべてははっきりしている。Yes、No がはっきりしているアメリカの人とその国民性の表れかもしれないと思った。家に帰ってハンバーガーを食べた後、すぐにカヤックをしに、家の裏の海に出た。カヤックは想像以上に楽しかった。



『多くて、濃くて、カラフルな食事』

海ではイルカと、砂浜ではカブトガニと遭遇した。セント・ピーターズバーグ市には、たくさんの動物がいる。それらの生き物と共存しているのは、とてもいいなと思った。夕方からはサンクスギビングパーティーへ行った。昨年度の親善研修生のヘイデンも来ていたので、久しぶりに色々話をした。実はヘイデンも高松に来ていた際、自分の家族がホストファミリーだった。彼の友達で親善研修生だったソロモンが中国と日本の問題についてどう思うのか聞いてきた。自分にも少しは考え



『ヘイデンと再会』

があっただが、英語で伝えるのは難しかったが、大体は伝わったと思う。自分のもと自分の国のことを知らないといけないなと思った。明日はセント・ピーターズバーグ市議会でのスピーチがある。この日は原稿を書きながら寝てしまった。

7月25日(木)

今日は市長表敬と市議会でのスピーチをする日だった。まず朝市役所に着くと、ちょっとしたパーティー会場のような所でお菓子が用意されていた。そこで他の研修生の3人と会った。相手が自己紹



『市長表敬』

介をした時には、分かるまで聞き返すことにした。ここに来て、英語を聞き取る力が付いたと思う。ただそれを理解する力がまだ足りないと思った。日本に帰ったら英語をもっともっと勉強したい。市長表敬にはいくつかお土産を高松から預かっていた。漆塗りの時計と夫婦箸、香川一刀彫りのポップダルマだ。ダルマについての説明を小野さんが英語でした。市長はとても関心を持っている様子だった。

その後、セント・ピーターズバーグ市のコマーシャルの撮影をした。これはケーブルテレビで放送されるとの事で、4人にはそれぞれセリフが分担された。もちろん初めての体験だったので緊張したが、良いものが出来たと思う。夜はホストファーザーのローレンスと一緒に、ヤンキースのグッズを買いにショッピングモールへ行った。その行き帰りの車の中で日本の軍隊のこと、憲法9条のことについて少し聞かれた。自分自身がだまかにしか把握していなかったのでもうまく説明できなかった。この日は1時に就寝。

7月26日(金)

今日は暑い暑い日だった。朝、日本にいる家族とビデオ通話をした後、朝ごはんを食べてヘイデンが迎えに来るのを待った。約束の時間を30分過ぎても彼が来ないので電話を掛けてみると、忘れ物に気付いて取りに帰っていたらしい。やはりアメリカには、時間にルーズな人が多い。ただ、みんなそれが当たり前らしく、誰も怒らないのもアメリカらしいと思った。ヘイデンが迎えにきた後、彼の友達のジェイジェイを連れて3人で野外音楽コンサートへ行った。パンクロックのコンサートだったので大音量の中、踊り狂う人たちがたくさんいた。自分も日本でライブに行ったことがあるが、アメリカ人は日本人よりノリがいいと思う。やはり音楽には言葉を越えた凄い力があると感じる。この日はキャスファミリーとの最後の夕



『パンクロックコンサート』

食会だった。行ったのはメキシコ料理のお店で、普段は家にいないジョナサンと彼の彼女のペギーも一緒だった。そのお店にはたくさんのテレビがあって、みんな地元の野球チーム、タンパベイ・レイズの試合を見ていた。その時、テレビにイチローの姿が映ったのを見て嬉しくなった。海外で頑張る人はかっこいいと思った。家に帰ってからみんなで映画を観た。戦争映画だった。映画の中では戦いで人がどんどん死んでいた。みんなホームステイして色々な国と仲良くなっていれば、戦争なんてないのかなとも思った。この日は映画を見ながら寝てしまっていた。

7月27日(土)



『キャス家とお別れ』

今日はホストファミリーが変わる日だった。昼からパーティがあつて、そこで軽く食事をした後、大きなボートで海を回った。たまたマイルカの群れと遭遇し、間近で見ることが出来た。パーティーの終りにキャスファミリーとお別れして、ヘイデンと一緒にショッピングへ行った。そこでヘイデンの友達と合流してショッピングを楽しんだ。タンパベイ・レイズのキャップを買った。夜、家に帰って彼の両親と会った。ホストマザーのスーズンは、とても気さくな人でホストファーザーのゲイリーはすごく優しくそうな人だった。その日の夜はヘイデンと少し夜更かしをして一緒に日本のアニメを見た。知ってはいたが、アメリカではとても人気があるらしい。

7月28日(日)

今日は朝6時半に家を出て、ヘイデン一家とソロモンと研修生の山本さんとでディズニーランドへ行った。途中橋を渡っている頃に見た朝日が、とてもきれいだった。朝食は道中のレストランに立ち寄った。目的地までは、およそ2時間程で着いた。ディズニーランドの規模は、日本のものとは比べ物にならないほど大きく、4つに分かれていた。その日は夕方までアトラクションを楽しんだ。印象に残っているのはアメリカ大統領府を再現したような場所で、そこ



『アメリカの朝日』

でアメリカの建国から現在に至るまでの歴史を学んだ事だ。帰りにソロモンが歴代のアメリカ大統領について色々教えてくれた。自分にはほとんどない愛国心を感じた。自分の国を誇りに思う事は素晴らしいことなんだと思うようになった。帰りの車の中でも自分とソロモンはずっと話していた。盛り上がったのは日本語や、英語の面白い言い回しの話だ。英語で土砂降りの雨の事を It's raining cats and dogs と言うらしい。諸説あるらしいが、猫と犬と一緒にいると騒いで収集がつかなくなる様子が一緒のように見えるかららしい。とても興味深かった。自分の英語力でここまで楽しい話ができただのかと思うと少し自信がついた。



『本場のディズニーランド』

7月29日(月)

今日は9時頃起きた。用意をしてから昼頃にソロモンと山本さん達とアウトレットモールへ行った。アメリカの店はひとつひとつテーマが決まっていて、その店にはその店の特色のようなものがあつた。自分はそこでTシャツとビーチサンダルを買った。街行く人を見て思ったが、こっちのひとは何を着ても似合う。スタイルが



『同世代のみんなとのパーティー』

いいからだと思う。夕方からはソロモンの家でパーティーがあった。焼きそばを作って持って行った。パーティーには10代の人も多く来ていて色々な話で盛り上がった。明日はタンパベイ・レイズの野球試合がある。楽しみだ。

7月30日(火)

今日は朝、ソロモンと山本さん、小野さんと一緒にタンパベイ・ローディーズのサッカーの練習見学に行った。自分は高校でサッカー部に所属しているので、久しぶりにボールに触れたのが嬉しかった。最近、小野さんのホストブラザーのスカイラーと仲がいい。前から小さい子は大好きだったが、外国の子供も同じようにかわいかった。彼はとても早く話すので、理解するのは多少難しいが一緒に楽しい時間を過ごせていると思う。タンパベイ・ローディーズの日本人選手、山田卓也さんはすっ



『山田選手と対面』



『レイズの試合観戦』

かりアメリカに馴染んでいらしたので、自分も海外に住むならこうなりたいと思った。夕食はスタジアムの近くのスポーツバーで食べた。そのあとついにタンパベイ・レイズの野球観戦に行った。アメリカの応援の雰囲気は日本とは違う、もっと盛り上がったものだった。日本人にはシャイな人が多すぎると思う。もっと自分を出すべきだなと思った。今日は久しぶりに忙しい日だった。帰宅後すぐ就寝。

7月31日(水)

今日は朝から研修生4人とソロモンとスカイラー達とボウリングへ行った。アメリカに来て2度目のボウリングだったのでやっていくうちにコツを掴んでうまくなった気がする。昼過ぎまでボウリングをした後、今年度の親善研修生で高松に来ていた、ティエンとキャサリンと待ち合わせをしていたジェラード屋さんへ行き、一緒に食べた。アメリカに来て、ある程度経ったので、ドルを使った支払いにも慣れていた。食べ終わった後、みんなでダウンタウンを散策した。セント・ピーターズバーグ市は海を中心として町並みがきれいに作られていて、本当に美しい街だと思う。



『もう一人の弟、スカイラー』

その後、アメリカの寿司レストランへ行った。日本の物とは少し違ったが、久しぶりに食べたお米の感触とお茶のおいしさは衝撃的だった。日本食もおいしい。そして、ヨットに乗ったり、パーティーをしたりした。その中でヘイデンに若者の使う英語をいくつか教えてもらった。その日も疲れてすぐ就寝。

8月1日(木)

今日はビーチパーティーがあったので海へ行った。とてもきれいな海で、スカイラーと一緒に泳いだり遊んだりした。ヘイデンは砂浜の所に大きなパラソルを立て、持ってきた移動可能なステレオで

音楽を聴いていた。日本なら他人の迷惑になるなどと、言われそうだけど、ここはアメリカ、誰もなにも言わないし本人も楽しそうだった。パーティーの後、古城跡に立ち寄った。そこには大砲台がいくつか残されているだけだった。南北戦争の時に使われたものらしい。その夜は再びソロモンの家に10代の若者が集まってパーティーをした。恋愛の話題で盛り上がった。やはりこういう話題は万国共通だなと思った。その日も帰ってすぐ就寝。



『夏だ、海だ、アメリカだ』

8月2日(金)



『陶芸に挑戦』

今朝は二人とも寝坊した。自分は遅れるから急いでいたが、ヘイデンはいつも通りゆっくり用意をしていた。30分以内の遅刻は遅刻に入らないらしい。遅れてサンケンガーデンに行くと、まだ全員は来ていなかった。再びアメリカらしさを感じた。サンケンガーデンはきれいなところだったが解説をしてくれる人の話す英語の速度が速すぎて何を言っているのか分からなかった。午後はヘイデンたちの卒業したセント・ピーターズバーグ高校を見に行った。ダンスや演劇に使うステージは本格的でびっくりした。その後陶芸に行った。初めて体験したので全くうまくできなかった。日本の陶芸との違いもあるのだろうか。日本の物も調べてみたい。明日はついに最終日だ。

8月3日(土)

今日は最終日だった。まず朝にレストランのハンガーで最後の朝食を食べた。ご飯を食べながら今までのホームステイを総括しての感想をみんなで言い合った。研修生全員が帰りたくないと言っていた。家に帰って荷物を詰めた後、ホストファミリー全員でランチに行った。日本にもあるような魚料理だったが、日本よりもずっと魚が大きかった。その後、お土産を買うのを手伝ってくれて、スキトルズというカラフルなキャンディーのお菓子を買えるだけ買った。



『アメリカ最後の昼食』

アメリカで食べたお菓子の中で一番おいしかった。帰りにはアイスを食べながら家族でいろんな話をした。その時はまだ寂しさは感じていなかった。夕方になり、空港に着くとスカイラーがずっと自分に泣きながら抱きついていて離れなかった。行かないでとずっと言ってきたが、帰らないといけないと言うと、しぶしぶうなづいてくれた。彼には大きくなったら親善研修生になって高松市に来るように言った。いつか大きくなった彼と日本で会えるのが楽しみだ。別れはつらい。でもそれはセント・ピーターズバーグ市での楽しかった日々と素晴らしい人々との出会いがあつてこそそのものだと思う。次に戻るときには今の自分には出来ないことをできるようになってもう一度ここへ戻ってきたいと思う。



『涙のお別れ』

感想文



高松西高等学校 2年

高橋 健

絆になるということ

今回、高松市の姉妹都市であるセント・ピーターズバーグ市にホームステイをしたというこの貴重な体験はこれからの自分の生き方を大きく変えるものだと思います。

私はホームステイを通じてたくさんのものでました。高松市とセント・ピーターズバーグ市との深い関わりを知った事、実際に生活の中で英語を使う力、そして現地でできた新しい家族と友達です。2週間という決して長くはない時間の中で、海を越えて新しく芽生えた友情はこれからずっと続いていくと思います。

これから何年たっても自分は自分を温かく迎え入れてくれたセント・ピーターズバーグの人々のことを忘れません。そしてもしセント・ピーターズバーグの人々が自分のことをずっと覚えていてくれるなら、この人と人の、市と市の友好はずっと続いていくと思います。つまり今自分自身が二つを繋ぐ絆のようなものだと思っています。

私はこれからも高松の素晴らしさを、これから出会うであろう多くの外国の方に知ってもらい、たくさんの人や町や国の絆となれたらいいと思っています。そのためにはもっと日本の事を知り、考えて自分の意見を持つ事が大事だと思います。ただ、今のままの英語力では自分の考えをありのまま伝える事はできません。これからは英語を今まで以上に勉強し、また再度セント・ピーターズバーグ市へ行く機会がある時は、2つの市を繋ぐ生きる絆として胸を張れるようになりたいと思います。

このような体験ができ、自分自身が成長できたのもこうした機会を与えて下さり、現地でお世話をしてくださったすべての人をはじめ、たくさんの方々のおかげだと思います。

本当にありがとうございました。

親善研修生 報告書 Ⅲ

用 著言辨 事斷得善處

日誌・活動記録

高松第一高等学校2年 藤田 恵理子

7月19日(金)

18時30分高松空港集合。今まで渡航経験はあったが、完全に私達研修生だけの旅は初めてだったので、ドキドキした。いざ夜中に羽田を立ち、ロサンゼルス空港へ。日付変更線をまたぎ、再び7月19日。変な気分だ。初めてのアメリカ！早く入国したかったのになぜか私だけ審査に引っ掛かった。質問に答えていたら、変だと言われて、別室に連行された。アメリカ滞在の目的や親善研修生とは何かを細かく質問され、説明に四苦八苦したけど約10分後に解放された。なぜ引き留められたかを空港の警備の男性に聞いてみたが、答えは分からないと言われ、納得がいかなかった。ロサンゼルス空港まで約5時間のフライト。時間の感覚がない。外を見ると星と街の明かりが見えて、宇宙にいる気分だった。

7月20日(土)

朝6時タンパに到着。セント・ピーターズバーグ市役所のエリザベスとキム、ホストファミリーの方々が迎えてくれた。最初のホストファミリーはベリオス家だった。ホストマザーのチカは日本人の方だった。娘のマヤは16歳で妹のミカは13歳。2人共、日本語が話せないが、理解はできるらしい。ホストファーザーのヨセは笑顔が、とても素敵だった。みんな歌う事が大好きで、ラジオで音楽が流れると高音、低音のパートに分かれて歌っていた。家に着いた時、疲れていて、すぐにでも寝たい気分

だったが、マヤに「今日はサプライズな場所に行くよ！ディズニーワールド！」と言われ、マヤの友達のアングェラと女子5人で1泊旅行に出かけた。フロリダのディズニーワールドは東京ディズニーランドより広かった。ダンスステージがあって、現地の人に交じって踊った。みんなとても盛り上がり



『シンデレラ城』

ていた。2時間程踊ったおかげで緊張がほぐれた。世界を紹介するアトラクションで、日本の人形がぺこぺこお辞儀をしているのを発見した。あれが外国から見た日本のイメージなのかなと思った。確かに日本人は挨拶や感謝の気持ちや謝罪する時に、お辞儀をしている。その行為は、相手に気持ちを伝える上で日本人には欠かせないものではないかと改めて気が付いた。夜はパレードとライトアップショーと花火を見た。シンデレラ城と花火が綺麗すぎて、何故だか分からないけど、気が付いたら号泣していた。ホテルに戻って久しぶりにシャワーを浴びて、泥のように眠った。



『疲労は最高潮』

7月21日(日)



『**全体重をかけて潰して食べます**』
時差ボケもなく目覚めは最高。昨日の強行ディズニーのおかげなのかなと思った。ホストファミリーとディズニーダウンタウンに行って、買い物をした。街並みが、テレビで観るアメリカのドラマそのものだったので、わくわくした。日本には、私に合うサイズのかわいい靴があまりないけど、アメリカには、たくさんあり嬉しかった。夜、コーディーズというレストランに行った時、初めて見た光景にびっくりした。レジの前で缶にピーナツを入れてテーブルに持っていき、何を注文するか考えながらピーナツを食べる。そしてその殻は床に落とす、というカウボーイの世界みたいなレストランだった。私はあまりお腹が空いていなかったのですが、チーズバーガーだけを注文した。出てきたのはアメリカンサイズのハンバーガー。口をどれだけ頑張ってもかぶりつけない厚さに悪戦苦闘していたら、アンジェラが「全体重をかけて押しつぶしてから食べたらいよいよ」と教えてくれた。家に帰って、ホストファミリーに扇子と漢字のTシャツ、歌舞伎柄のファイルなどの日本のお土産を渡すとすごく喜んでくれた。気が付くとベッドで寝ていた。おやすみも言わないまま寝落ちしていたらしい。

7月22日(月)

マヤ、ミカとサマーキャンプに行き、一気にたくさんの友達ができる。サマーキャンプでは夏休みの間、子供達が集まって一緒に遊ぶらしい。私が折り紙を出すと、ORIGAMI!!と言ってたくさん来てくれた。英語で折り方を説明するのは難しい。一緒に鶴やバラを作った。難しいからできないと言いつつも、次はどうするのと聞いてくれる。興味を持ってもらえて嬉しかった。アメリカの子供達はみんな角を揃える、きちんときれいに折るという事を気にしていなかったので、個性的な鶴がたくさんできて面白かった。ここで色々日本との違いを感じた。アメリカの子達はものすごく積極的に発表する。誰かが話していても、ずっと手を挙げて待っている。日本では見たことない光景だったので、少し驚いた。午後はプールで遊んだ。サマーキャンプで仲良くなり、一緒に遊んでいたアマイヤが途中でプールから出たのでどうしたのか聞くと、12歳以下は休憩を取らないといけないというルールがあり、彼女は11歳だから上がらないといけないということだった。私は彼女が15歳位だと思っていたのでびっくりした。みんな大人っぽく見える。



『**キャンプの仲間たち**』

7月23日(火)

ダリ美術館に行った。日本人ガイドの方の説明がないと、どんな絵か分からなかったと思う。でも、不思議と引き込まれる作品ばかりだった。特に好きな作品はリンカーンの絵で、近くで見ると、窓から海を眺める女性に見えるのに、20メートル程離れて見ると、リンカーンの顔に見える作品だった。このようにダリの作品には何かしらの仕掛けや意味があり、見る度にこの作品にはどんな意味がある



『ダリのトレードマークは髭』

のかとわくわくしながら鑑賞した。お昼ご飯は空港のレストランでサンドイッチを食べた。やはりアメリカサイズで大きく、半分でお腹がいっぱいになった。ガイドのキャシーさんと研修生4人で、人種差別のことや自分達の将来の夢や日本について話した。実際にアメリカで過ごして、人種差別について、いつもと違う見方ができた気がする。午後に、エッカード大学とドンセザールホテルに行った。エッカード大学は自然がいっぱいで、日本の大学のように圧迫感がない。敷地内の池にワニが頻繁に出没するらしい。雰囲気も良く、授業も1か月から受講する事ができ、充実した内容である事を聞いてすごくいい学校だと感じた。大学4年生の夏には、絶対に研修生みんなでこの授業を受けに来ようと約束した。ドンセザールホテルは通称ピンクホテルとも呼ばれていて、その名の通り外観はピンク色だった。ホテルの敷地内にあるビーチはすごく綺麗だった。真っ白な砂浜が日光を跳ね返して、サングラスをしていなかった私と高橋君は眩しくて目が開けられなかった。夜、買い物に行った。服が思った以上に安い。すごくかわいいワンピースを4ドルで買った。

のかとわくわくしながら鑑賞した。お昼ご飯は空港のレストランでサンドイッチを食べた。やはりアメリカサイズで大きく、半分でお腹がいっぱいになった。ガイドのキャシーさんと研修生4人で、人種差別のことや自分達の将来の夢や日本について話した。実際にアメリカで過ごして、人種差別について、いつもと違う見方ができた気がする。午後に、エッカード大学とドンセザールホテルに行った。エッカード大学は自然がいっぱいで、日本の大学のように圧迫感がない。敷地内の池にワニが頻



『ドンセザールホテルのビーチで』

7月24日(水)

小野さんとサマーキャンプに行った。今日はファイアファクターという遊びをした。椅子取りゲームやクイズをするのだが、それには罰ゲームがあり、生の魚にかじりつく、ピクルスの汁一気飲みなど、きつい内容のものばかりだ。私は早食い・早飲みレースに参加し、缶の炭酸ジュースを一気飲みした。炭酸はあまり得意ではなく、一気飲みもやったことがなかったので大変だった。私のせいでチームは最下位になってしまったが、幸いにも罰ゲームを受けずに済んだ。夜には研修生やホストファミリーが参加する、サンクスギビングパーティーがあった。みんな各自料理を持ち寄るパーティーだったので、家に帰ってちらし寿司を作った。アメリカの米と寿司酢の相性がいいようで、とても上手にできた。パーティーでは、とても人気で、たくさんの人に作り方を聞かれた。日本から持参していた、



『サンクスギビングパーティにて』

ちらし寿司の素と混ぜただけだったので困ってしまっただ。パーティーはセント・ピーターズバーグ市長の挨拶から始まった。市長はとても気さくな方で、スピーチのあちらこちらにジョークが入っていて面白かった。昨年の親善研修生で、高松に来ていた時に仲良くなったソロモンとヘイデンにも会えた。一年ぶりの再会で、ハグをしてくれた。アメリカの挨拶は、すごく温かく感じる。ここでもたくさんの人に声を掛けてもらい、仲良くなれた。

7月25日(木)

今日は市長表敬と市議会でのスピーチ、セント・ピーターズバーグ市の広報活動の一環であるコマーシャル撮影。緊張したけど、とても楽しかったし、めったにできない経験ができたと思う。市長表敬では高松から持参したお土産を渡した。私達は市長と、大笑いしながら話していた。市長という立場の人とこんな風に話せる事が不思議に感じた。マヤとセント・ピーターズバーグ市親善研修生のサンコースターズのケリー、シャマリにスピーチを作るのを手伝ってもらった。スピーチで、セント・ピーターズバーグ市の好きなところは料理がおいしいところです、と言ったら議員の方に笑われてしまった。コマーシャル撮影の時、緊張をほぐすために変なステップを踏んでいたら、撮影隊の人にまた笑われてしまった。コマーシャル撮影では私達研修生の自己紹介や、広報活動としてセント・ピーターズバーグ市のアピールをしたが、何度も間違えてしまい申し訳ない気持ちになった。

7月26日(金)



『おしゃれな老人ホーム』

やっと慣れてきたのに、今日が1週目のホストファミリーのベリオス家と過ごす最後の日。今日もサマーキャンプに行った。老人ホームでボランティアを体験した。アメリカの老人ホームは大きな家のような外観で、とてもおしゃれだった。今日はみんなでファッションショーをするということで、私達は、おばあちゃんにお化粧をしてあげたり、マニキュアを塗ってあげたりした。とても喜んでくれて嬉しかった。私の名前の恵理子がすごく呼びづらく、エリーって呼んで、と頼んだらみんな私をエリーと呼んでかわいがってくれた。アメリカでは小さいころからボランティア活動に参加することは珍しくないらしい。日本では、小学校の総合の時間に老人ホームに行っただけで、こういうボランティアをあまりした事がなかったので、新鮮だった。私は自分が小さい頃に、このような体験がしたかったと思った。日本でも同じようにボランティア体験をすれば、私達にとってとてもいい経験になるし、将来の自分の進路にも良い影響を与えてくれるのではないと思う。午後は、キャンプの体育館でゾンビという鬼ごっこをして遊んだ。鬼はゾンビで、ゾンビは唸りながらスキップで追いかけないといけなくて、逃げるときは全力で叫ぶ、捕まった人は10秒間いれんしてゾンビとして生まれ変わってほかの人を追いかける、という内容の遊びだったが楽しくて、みんな大笑いして、ずっと腹筋が痛かった。

7月27日(土)

タンパベイ・ウォッチでヨットに乗って、生まれて初めて野生のイルカを見た。野生のイルカは大きいと思っていたが、想像以上に小さくてかわいかった。2週目のホストファミリー、プロッツ家のホストファーザーのビルとホストマザーのメリアンは2人もヨットクラブのメンバーということで、特別にヨットの操縦をさせてもらった。遊園地のゴーカート運転するのに似ていて、『ボートを操縦する私とホストファミリー』



難しくはなく、もう少し頑張れば、私でも免許が取れるのではと思った。プロッツ家の家は川に面していて、とても素敵な所だった。家の中でも靴を履きっぱなしというイメージ通りの習慣や、プール、トレーニングルーム、サウナ、ヨット、私専用のバスルームがあっぴょくりした。ベッドが私の太ももの半分ほど高さがある、ふかふかなものだったので思わずダイブしてしまった。夕食後、馬を見に行こうと競馬場へ行った。その道中では日本とアメリカの物価の話になり、ガソリンの値段が日本の方が高いと驚いていた。

7月28日(日)



『ビルと私』

ヨットクラブのランチに行った。ちょっとフォーマルな格好をしてと、言われたので、ワンピースを着て行った。その会場で、日本語を勉強している男の子と仲良くなった。食事はバイキング形式で、どれがおいしいのか分からなかった。料理人の方やビルのおすすめを全部取ったら結構な量になってしまった。それらを食べるときに、ナイフとフォークの使い方で苦労した。使い慣れないナイフとフォークで必死に食べていたら、色々な人に見られて恥ずかしかった。もっと使い慣れないといけないと思った。食事中、家族の事をたくさん聞かれた。今まで父の仕事や姉の将来の夢について人に話すことがなかったので、答えるのが大変だった。意思疎通に苦戦して、ホストファミリーがその事について勘違いしてしまった事もあった。英語を上手に話す事も大事だが、自分や家族、日本の事をきちんと知っておくという事が、とても重要だと思った。今後はもっと家族とお互いの事を話したり、自分の国の事をもっと勉強したい。その後、ビルと一緒に複葉機に乗った。15分間の飛行中、上空から見下ろした美しい景色は忘れられない。オレンジの屋根と緑の芝生、そして青い海。とてもきれいだった。スヌーピーが被っていたのと同じ飛行用の帽子だよ、と言われてウキウキしながら帽子を被った。『セント・ピーターズビーチのサンセット』だが、私が被るとサルみたいだった。夜20時ごろ、メリアンと夕日を見にビーチへ行った。私と空、海の間には何もなくて視界一面オレンジ色に染まっていた。きれいだった。



7月29日(月)



『スカイウェイブリッジ』

モーニングコーヒーを片手に飲みながらホストファーザーのビルの車を洗車した。彼の車はマツダのオープンカーで、ビルが日本車のエンジンは素晴らしいと言っているのを聞いて、なんだか嬉しかった。ビルと2人でランチを食べに行き、スカイウェイ・ブリッジを見に行った。普通の橋はずっと平らだが、スカイウェイブリッジは半分が上り坂のようになっていて、その後は下り坂のようになっていた。ちょっとした山のような印象を受けた。また橋全体のデザインが、とてもかわいかった。その後、島1つが自然公園のようになっている所で、セグウェイに乗った。最初

は少し怖かったけど、慣れるととても簡単で、感覚的にはスノーボードと似ていると感じた。最後には両手を離して乗ったり、とても速く走ったりできるようになった。夜は、山本さんのホストファミリーであるソロモンの家で研修生とホストファミリーが集まって一緒に食事をした。



『セグウェイで島を一周』

7月30日(火)



『特等席で野球観戦』

朝、家にあるランニングマシンで30分くらい走って、その後サウナに入った。アメリカの生活は車での移動が多くてなかなか運動する機会がないし、室内はどこもエアコンが効いていて、涼しくて汗をかかないので、久しぶりに汗をかけて気持ち良かった。朝食の後、メリアンとクリアウォーター水族館へ行って、尾びれのないイルカたちを見た。このイルカの話はドルフィンテールという映画にもなっていて、かなり有名らしい。タンパベイ・レイズの試合を見た。初めて球場で野球観戦をしたので、すごく興奮した。タンパベイ・レイズが勝ったので嬉しかった。試合中、一回も送りバントを見なかった。同じ種目なのに日本の野球とは違うところもあって面白かった。試合の合間にスクリーンに映った2人はキスをする、キスカメラという日本ではありえない企画に、かなり驚いたので大騒ぎしていたら他の人達に呆れられてしまった。球場で観戦マナーの違いに初めて気が付いた。ピーナツを食べるとき、私達は殻を袋に入れたりして、散らかさないように食べていたのに、周りを見ると殻は落として踏んでいるし、飲み終えたジュースのカップも転がっていてびっくりした。

7月31日(水)

昼から、今年、親善研修生として高松に来ていた、ティエンとキャサリンがダウンタウンを案内してくれた。その後、私達研修生4人とティエン、キャサリンと小野さんのホストファミリーでジェラードを食べ、ダウンタウン近くの海に行った。砂の色がピンクで不思議だった。その後、セーリングを体験した。元ヨット部のヘイデンが操縦の仕方を教えてくれ、実際に操縦をさせてもらった。アメリカでは同世代のする事が自分達とは違って新鮮に感じた。帰りに買い物かしたいと言うと、ホストファーザーのビルがドラッグストアに連れていってくれた。レシートにクーポンや広告と一緒に印字されている為に、レシートが異常に長く驚いた。



『ダウンタウンを見下ろした景色』

8月1日(木)

今日はビーチパーティーをした。久々に海で泳げて楽しかった。1週間以上アメリカで過ごしていると、自分の胃袋がアメリカサイズになったらしく、たくさん食べられるようになってしまった。アメリカ

の料理は美味しいけれど、大味で、一つ一つの料理の味の主張が激しいなと感じた。今日、アメリカの挨拶について感じた事があった。それは道路の料金所で、そこで働く人と、運転者との間では業務的な内容だけではない会話があり、最後は“よい一日を！”“あなたもね！”と言うことだ。たとえ他人でも相手を思う一言が添えられている所がすごく素敵だと思った。夜はソロモンの家でティーンズパーティーをした。アメリカの同世代の生活を少し知ることができたと思う。例えばアメリカの十代の子達は男女の仲がすごく良く、異性の友達とも普通にハグをする。日本では考えられないので驚いた。

8月2日(金)



『姉妹都市記念碑の前で』

この日はサンケンガーデンを見学した。色々な植物を見る事ができた。ガムの木を初めて見たが、あの木から普段私達が食べているガムができていると思うと不思議でたまらなかった。また、日本庭園のエリアもあった。アメリカの生活に慣れたせいか、日本庭園が別の世界のもののように新鮮に感じて、日本に来た外国の方が素晴らしいと言う気持ちが分かった気がした。しゃべるオウムにも会うことができ有意義だった。

昼食の時、ソロモンと、ティエン、キャサリンと日本の話をした。お邪魔虫という言葉の意味は何なのか、なぜ神社でお参りする時は手を叩くのか、お盆とは何か、なぜきゅうりとナスに楊枝を刺すのか、日本の人口における神道と仏教の割合はどれくらいか、など今まで気にしたことがなかったことを聞かれて答えにくかった。この時、もっと日本の事を知りたいし、今後はそれらをきちんと説明できるようになりたいと思った。その後、セント・ピー



『喋るオウムのミンディ』



『映画に出てくるような講堂』

ターズバーグ高校に行った。私の通っている学校とは違って400mの陸上トラックや劇場のような講堂、カフェテリアなどがあった。教室は日本より少し小さいくらいの大きさで、椅子と机は一緒になっていた。座ってみたが、字は書き難そうだった。演劇や歌、スペイン語の授業があるらしく、私も演劇の授業を受けてみたいと思った。高校見学の後、陶芸に挑戦した。初めてだったので全然うまくいかなかった。スタッフの方に手伝ってもらったが、最後にはお皿の底がなくなってしまった。夕食はキャサリンの家族と、私のホストファミリーとでバーベキューをして楽しかった。

8月3日(土)

人生で最も短い2週間だと思った。とうとう最終日。朝ご飯は研修生とホストファミリーのみんなで、ハンガーというレストランで食べた。アメリカで一番恋しかった日本のものは何か、日本に持って帰りたいアメリカのものは何かなど、たくさん話した。アメリカ人がミドルネームを持っていることがうらやましかったので、ティエンとキャサリン、ソロモンに考えてもらった。即答で“Elizabeth(エ

リザベス)”と言ってくれたので嬉しかった。お昼は私のホストファミリーの家でバーベキューをした。ティエンとキャサリンの家族と私の1週目のホストファミリーと、小野さんのホストファミリーが来てくれた。夕方、空港に集合した時、まだ帰るという実感があまりなかったのだが、いざ帰るという実感がわくと誰よりも泣いていたと思う。いろんな人と何回も何回もハグをした。アメリカでは人と別れるとき“Good bye(さようなら)”と言わずに“See you later (またね)”と言うということを教えてもらい、やはりアメリカの挨拶は温かいと感じた。そして涙涙の別れ・・・と思いきや、私だけ搭乗券を持っていないことが発覚。荷物を預けたのに券を渡されていなかった。ビルとメリアンと大急ぎでカウンターまで行って発行してもらった。



『重量オーバーについて詰め直し』



『仲良くなった歴代研修生』

その間、ビルが、券がないならずっとここにいたらいいのにと言ってくれたので、そうしようかと本気で思ってしまった。搭乗券を手に入れて、再び搭乗口へ。「みんな本当にありがとう、また戻ってくるね」とかっこよく言い残してモノレールに乗った。

感想文



新しい友達と新しい自分に

出会った夏休み

高松第一高等学校 2年

藤田 恵理子

アメリカでは、新しい発見の連続で毎日が充実していた。まず、初日から自分の英語力の低さ、知っている単語の量の少なさにショックを受けた。自分は日本のことや家族の事を自分が思っている程、知らないということも分かった。日本人なのに日本のことを伝えられない、家族のことを話せないということが、恥ずかしかったし、悔しかった。いろんなことに興味を持って知ろうとすること、そしてそのことについて知り、自分の考えを持つことが大切だと分かった。

次に自分の意見をはっきりするということだ。アメリカに行く前からアメリカではYesとNoをはっきりさせないとだめだよ、と言われていたが、あまり分かっていなかった。この本当の意味は、好き、嫌い、やりたい、やりたくないだけではなく、そのことについて自分がどう考えるのか、言葉にすることだと思った。日本では言わなくてもお互いに雰囲気や相手の気持ちを察知し合うが、アメリカではそれは通用しない。でも、自分の気持ちをはっきり相手に伝えることは楽しかった。

言葉の良さも感じた。日本の学校では“Nice to meet you.”は「初めまして」だと習うが、本当は「あなたに会えて嬉しい」と訳すべきだなと感じた。私はこの親善研修の応募をする際に、様々な人種の人達が集まるアメリカに行けば、色々な立場や考えの人がいるに違いない、そういう人達と話す事によって自分の視野が広がり、将来の夢が見つかるのではないかと思った。毎日、学校と家の往復で、次のテストや部活、大学受験の事を常に気に掛けてきた。学校生活は楽しいし、好きだけれど、いつもとは違う環境に飛び込んで刺激を受けたかった。

実際、アメリカで色々な人種の人々に出会い、その人たちと話をした。自分が今まで知らなかった世界を肌で感じる事ができて、今、自分の中で何かが少しずつ変わってきていて、今まで不透明だった自分の将来の目標が見えてきた気がしている。劇的に人生が変わったわけではないが、この経験は確実にこれからの私に大きな影響を与えるだろう。

最後になりましたが、私にこのような機会を与えてくださったすべての方々に本当に感謝しています。この経験は一生忘れられないものとなるでしょう。この夏の思い出と、この研修を通して出会ったすべての人との絆は、私の一生の宝物です。

親善研修生 報告書 IV

VI 書畫贈 坐對而善觀

日誌・活動記録

高松高等学校 2年 山本 育実

7月19日(金)

いよいよ出発の日。選考合格通知が来た日からずっと楽しみにしていた日がやっときた。セント・ピーターズバーグ市の事は色々と調べていたので、着いたら何をしようか、どこへ行こうか、ホストファミリーはどんな方だろうと考えながら高松空港へと向かった。空港には母と祖母が見送りに来てくれた。それまでアメリカへ行くというわくわくした気持ちでいっぱいだったが、母と祖母の顔を見た途端、急に寂しくなった。様々な気持ちが入り混じる中、一緒に行く研修生達と高松空港を出発した。



『夜景をバックに羽田空港で』

7月20日(土)



『ウィリアム家のみなさん』

期待と不安を抱えながらタンパ空港に到着した。言葉も通じない見知らぬ土地で、うまくやっていけるだろうかと思う反面、親元を離れてアメリカへ行くという初めての経験に胸の高なりが止まらなかった。飛行機の中では、着いてからのことを考えながら研修生4人の中で多分1番寝ていた気がする。約15時間のフライトは体力的にも精神的にも辛かったが、タンパ空港に着いた瞬間それらは吹き飛んだ。

7月21日(日)

空港にはセント・ピーターズバーグ市役所のエリザベスとキムが迎えに来てくれていて一緒にモノレールで移動し、ホストファミリーと対面した。ホストファミリーと一緒にサンコースターズ研修生もいて盛大に歓迎してくれた。私の1週目のホストファミリーはホストファーザーのマイク、ホストマザーのマーサ、17歳のミケイラと14歳のケーシー姉妹のウィリアム一家だった。初対面の私を温かく迎え入れてくれ、とても嬉しかった。その日は一緒にスーパーへ買い物に行った。アメリカのスーパーは全体的に広く、雰囲気は日本の業務用スーパーのような印象を受けた。夕食の買い物をする時に私のことを気遣ってくれ、食べたことがないと言いながら、お寿司を買ってくれて優しさを感じた。売られていたジュースは全て3ℓ容器で、日本では見たことのない大きさだった。すべての物の大きさに驚かされ、アメリカに来たことを実感した。

7月22日(月)

この日は朝からミケイラとケーシー がブッシュガーデンに連れて行ってくれた。そこは遊園地と動物園、ウォータースライダー等があり、複合施設のような所だった。日本では見たことのないようなジェットコースターに乗ったり、アイスショーを見たり、私の好きなグリーの曲のミュージカルを見たりと楽しかった。グ



『ホストシスターのケーシーと』

リーはアメリカの高校を舞台とした

ミュージカル風ドラマで、私は洋楽が好きなのでよく見ている。ケーシーとは、そこでイギリスの人気男性グループのワンダイレクションの話をして盛り上がった。だいぶんコミュニケーションを取れるようになったが、自分の語彙力が足りないのと、発音がうまくできず、次何をしたいか自分の意見を持ってそれを伝えるのに苦労した。



『ブッシュガーデンにて』

7月23日(火)

この日は研修生のみんなと公式行事のダリ美術館へ行った。ダリ美術館はガラス張りになっており、建物自体も芸術的なものだった。日本人ガイドの方が作品について説明してくれ、作品に込められたダリの気持ちを感じることができた。そのあとはエッカード大学へ行き、どのような事が学べるのか、日本人の学生はいるのか、寮生活等、教授から話を聞く機会があった。海外の大学には興味があったので、話を聞けてとてもよかった。大学見学後、ドンセザールと



『インターナショナルプラザにて』

いうピンク色のホテルを見に行った。すぐ横にビーチがあり、白い砂浜が眩しかった。その後、ホストファミリーと合流して行きたかったタンパにある最大級のショッピングモール、インターナショナルプラザに連れて行ってもらった。食品はもちろん、雑貨、洋服まで何でも揃う場所。私もホストシスターもショッピングが好きだったので、一緒に洋服を選んだり、お土産を買ったりした。1日ではとてもまわりきれないほどの広さだった。



『ダリ美術館』

7月24日(水)

この日は、朝からホストシスターのミケイラとビーチに行って初めてセント・ピーターズバーグの海で泳いだ。真っ白な砂が印象的な綺麗なビーチで、ミケイラと海岸を歩きながら高松市とセント・ピーターズバーグ市の海岸の違いについて話した。高松市の海はセント・ピーターズバーグ市の海より水温が低く、波も高くない事、海岸線の長さが違う事などについて話した。同い年ということもあり、話が弾んだ。家に帰り、サンクスギビングパーティーのために、ホストマザーとスイートポテトを作った。砂糖の量に驚いたが美味しくでき、みんなにも喜んでもらった。パーティーには研修生の



『ミケイラとスイートポテト作り』

それぞれのホストファミリー、セント・ピーターズバーグ市長、サンコースターズ親善研修生の人達が来ていた。このパーティーで私の2週目のホストファミリーで、昨年度の親善研修生で高松に来ていたソロモンと、ソロモンのお母さんのバレリーに会った。夜になると家の横にある湖で、ホストファーザーが魚を釣ると言うので一緒に行った。ピラニアという大きな魚が釣れ、日本ではあまりに見たことがなかったので驚いた。魚を釣っている際にホストファミリーの飼っている犬のラッキーが走り回って興奮していたのが面白かった。キャンプファイヤーもしてマシュマロを焼いて食べた。家の周りに自然がたくさんあるのは、セント・ピーターズバーグ市の良さだと思った。

7月25日(木)

この日は、セント・ピーターズバーグ市役所でコマーシャル撮影と市議会でスピーチをしなければならなかった。コマーシャル撮影では用意された英語の原稿を読むというものだったが、覚える事に苦戦して何回も繰り返してしまった。コマーシャルでは広報活動の一環として、セント・ピーターズバーグ市の良さ、高松市との友好関係を宣伝した。市役所の地下にあるスタジオで撮影した。市議会



『市議会でサンコースターズ研修生と』

には市長をはじめ、議員の方々がいて、私はセント・ピーターズバー



『コマーシャル撮影』

グ市での思い出や両市の友好の架け橋になりたいという思いをスピーチした。市議会の様子はケーブルテレビで中継されていた。前日から緊張してミケイラとケーシーにリハーサルをしてもらっていたが、やはり当日も緊張してしまった。上手く言えず落ち込んでいるとホストマザーが「あなたが一番良かったわよ」と言って慰めてくれ、マクドナルドに連れて行ってくれた。まるで本当のお母さんのようで、とても嬉しかった。夕方からミケイラとケーシーの友達とナチョスを食べ、ボウリングに行った。みんなと好きな歌手やテレビ番組について話したり、同世代同志だから言える、恋愛の話をしてまるでアメリカの高校生になったような気がして刺激的だった。

7月26日(金)

この日は朝からミケイラの運転でプールへ行った。同じ歳の子が車を運転している光景はなんだか不思議な感じがした。昼からイルカウォッチングに行き、初めて野生のイルカを見た。イルカは水族館でしか見たことがなかったので、野生で泳いでいるのを見て不思議な気がした。船に近寄って来て、人間に慣れているのかなと思った。手が届きそうなほど近い距離にイルカが来てくれるので興奮した。イルカウォッチングの所でミケイラが私の名前とセント・ピーターズバーグの文字の入ったイルカ模様のTシャツをプレゼントしてくれた。セント・ピーターズバー



『ホストファミリーからのプレゼント』

グ市へ来た思い出になるので嬉しかった。夕食は私が好きと言ったピザを用意してくれた。最後の食事だったので、私の家族のことや楽しかったことなどについて家族で話した。ウィリアム家の方々は心の温かい方ばかりで、私のことを本当の家族のように接してくれて、「あなたの部屋はいつでも空けておくから」と優しく言ってくれたことは、今でも忘れられない。

7月27日(土)



『アメリカのお菓子』

この日から2週目のヘイマン家にホームステイした。昨年度親善研修生として高松に来ていたソロモンとお母さんの2人だった。2人とも本当に日本のことが好きで、家にも日本のお茶や食器などがあった。着いてすぐ、私が中学生の頃、テニス部だった事をソロモンに伝え、一緒にテニスをしようと言ってくれたので、近くのテニスコートへ行った。ソロモンもテニスの経験があったのでとても上手だった。1時間位二人で打ち合いをした後、休憩をしながら、ソロモンと日本とアメリカの違いについて話した。アメリカのレストランは日本よりも注文した料理が来るのが遅いと話した。ソロモンは日本のレストランにある店員を呼ぶボタンの事をマジックボタン(魔法のボタン)と言っていた。それだけ感覚が違うのかと感じた。アメリカにも100円ショップがあると言うので一緒に行って様々なお菓子を買った。家に帰って2人で食べ比べをした。今まで食べたことのないような食感と味ばかりだった。アメリカのお菓子ははっきりとした味のものが多く、私には辛すぎたり、甘すぎた。グミは日本のものより弾力性が強く、食べるのに苦労した。ソロモンと美味しい、不味いと言いながら食べるのは楽しかった。アメリカの100円ショップはほとんど日本と内容が同じで、生活用品、文房具、食品を取り揃えていた。アメリカの方が食品が多い印象を受けた。

7月28日(日)

朝早くからソロモンと研修生の高橋君とそのホストファミリーで、ディズニーワールドへ行った。どうしても行きたかったので楽しみでしかたなかった。東京のディズニーランドよりも何倍も広く、本当に夢の国だった。嵐が来てしまい、花火を見られなかったのが心残りだが、夢のような時間を過ごすことができた。アトラクションは殆ど日本と同じで、スペースマウンテンやイツ・ア・スモールワールドに乗った。しかし、いくつかのアトラクションに乗ろうとした時、不備や故障があり乗れない事があった。日本ではこのような事はないだろうと考えながら日本の技術の高さを実感した。ディズニーワールドの帰りにみんなで、キューバ料理を食べに行った。初めて食べたが、日本人が食べやすい味付けでとても美味しかった。メニューの見方が分からず、全てソロモンに教えてもらった。



『ディズニーワールド』

7月29日(月)

この日はソロモン、高橋君とそのホストファミリーで昨年度の親善研修生だったヘイデンと一緒にアウトレットへ行った。日本のアウトレットと似ていて買い物がしやすかった。夕方からみんなでソロモンの家に集まり、プールパーティーをした。色んな人と話す機会があり、みんな私の話を熱心に聞いてくれ、話すことに少し自信がついた気がした。みんなが帰ったあともソロモンとお母さんと文化の違いや好きなことについて話し合った。アメリカ人は物の扱いが雑で、日本人は神経質だという内容だったり、私はアメリカの挨拶文化が好きな事を話したり、竹島問題や中国との関係についての意見も求められ、日本語でも説明するのも大変なのに、それを英語で伝えるのには苦勞した。日頃からもっと時事問題に目を向け、自分の意見を持てるようにしたいと思った。そうできるように語彙力を増やさなければと思った。それからほぼ毎日あった寝前の団欒は勉強になり、刺激的だった。

7月30日(火)

今日はタンパベイ・ローディーズというサッカーチームでプレーする日本人選手の山田卓也さんに会いに行った。アメリカに来て言葉が通じない環境で大変な事、若いうちから世界に目を向け自ら行動する大切さを話してくださった。体格が全然違う外国人と対等にプレーする姿に心を打たれた。夜はタンパベイ・レイズの野球観戦をした。あまり野球には詳しくないが、普段テレビで見る光景が目の前で繰り広げられ興奮が冷めなかった。研修生のみんなでタンパ



『山田卓也選手とサッカー』



『タンパベイ・レイズ試合観戦』

ベイ・レイズのキャップを被り、セント・ピーターズバーグ市の計らいで、特別な観戦席で見ることができた。この日はスポーツを満喫した日だった。夕食にしっぽくうどんを作ってあげた。ソロモンに頼んで材料と一緒にスーパーマーケットへ行ってもらい、必要なものを買って揃えた。できるだけ香川県のしっぽくうどんに近いものを食べて欲しかったので、野菜選びは時間を掛けた。うどんは香川県に住むソロモンの友達から送られてきたものがあったので、それを使う事ができた。ソロモンもパレリーも「おいしい、おいしい」と言って食べてくれたので嬉しかった。作った甲斐があった。



『香川の郷土料理しっぽくうどん』

7月31日(水)

朝からソロモンと研修生のみんなでボウリングへ行った。日本と全く同じだったので驚いた。ボウリングを通して、より一層仲良くなった気がした。昼からは今年度のセント・ピーターズバーグ市からの親善研修生のティエンとキャサリンが、私達4人をダウンタウンにあるジェラートが美味しいお店に連れて行ってくれた。その後ダウンタウンを散策した。ダウンタウンは、セント・ピーターズバーグ市の中心地で、高層ビルが立ち並び、高松市でいうサンポートのような所だった。また、中心地と

は思えない程、多くの木々が生き茂り、広い公園もあった。夕方からはセーリングパーティーがあった。高橋君のホストファミリーのヘイデンの所属するセーリングクラブだった。研修生とそれぞれのホストファミリー、ティエンとキャサリンも参加していた。セーリングをしたのは初めてだったが、海風を切って走るのが気持ちよかった。



『みんなでボウリング』

8月1日(木)



『カレーライスとソロモン』

今日はビーチパーティーがあり、朝から海へ行った。綺麗な海を見ると思わず飛び込みたくなり、みんなで思いっきり泳いだ。昼食はバイキング形式で用意してくれていて、大好きなマカロニチーズばかり食べた。夜はソロモンの家でパーティをし、色々話をして盛り上がった。夕食にカレーライスを作ってあげた。どうしても日本のお米が使いたかったのだが、アメリカで見つけるのは大変だった。炊飯器がなかったので、鍋を使って炊かなければならなかった。ソロモンのお母さんが手伝ってくれたので上手く炊く事ができた。家で作るのと同じようにできたので安心した。しっぽくうどん同様、好評だったので嬉しかった。

8月2日(金)

今日はサンケンガーデンに行った。そこは植物園で、様々な植物や花が生息していた。喋るオウムがいて、自分の腕に乗せて話してみた。オウムのつぶらな瞳がとても可愛かった。その後、セント・ピーターズバーグ高校を見学する事ができた。日本の高校との違いにみんな興味津々だった。また初めての陶芸体験



をした。見た目よりも難しく、上手に形を作るのに苦労した。陶芸は日本の芸術だと思っていたので、アメリカで体験できるとは思ってもよらなかった。なんとか1枚お皿を作ることができた。この日はまた、ソロモン達にはユダヤ教の儀式があり、一緒に参加させてもらった。みんなで歌を歌い、手順に従って手を洗い、ユダヤ教では食事規定があるのでそれに沿った食事を食べた。豚肉や甲殻類、ひれやうろこがある魚が食べられなかった。『セント・ピーターズバーグ高校で』り、食べ物の組み合わせにも規制があるらしい。私にとって歌を歌ったり、お祈りすることは今まで経験がなく、初めての経験で新鮮だった。家族みんなで輪になり手を取り合い、祈りを捧げるのを見ていて素敵だなと感じた。



『喋るオウム』



『真剣に陶芸』

8月3日(土)

最終日。朝食はハンガーというレストランで食べた。最後にお土産を買いたかったので近くのフロリダ専門店へ連れて行ってもらった。フロリダのお土産を売っているお店で、洋服やお菓子を売っていた。そこで友達のお土産を購入した。家に帰って荷造りをしているとお土産が多く、なかなかまとまらなかった。一人で四苦八苦しっていると、ソロモンのお母さんが手伝ってくれた。私が荷造りした



『ソロモンファミリーと』

時は、かばんが3つも4つも必要になってしまっていたが、ソロモンのお母さんに手伝ってもらおうと信じられない事に1つにまとまってしまった。お土産に買っていたマグカップの中にお菓子やペンを入れたり、かさ張るような箱や袋は全て取り払ってまとめたり工夫がすごいなと思った。帰りの空港でも荷物の重さがオーバーしてしまい困っていると、トランク以外に機内に預けられるようにわざわざ新しい袋を買って来て詰め直すのを手伝ってくれた。私が準備する



『最後に空港で』

るのが遅くても嫌な顔一つせず待っていてくれて、本当のお母さんのようにお世話をしてくれた。ヘイマン家の方々はとても仲がよく、素敵な方々だった。ソロモンは私のことを妹のように可愛がってくれ、たくさん話しかけてくれたので別れが辛かった。飛行場には1週目のウィリアム家の家族も見送りに来てくれ、別れ難くなり涙が止まらなかった。セント・ピーターズバーグ市は私の第2の故郷になった。是非また行きたいと思う。

感想文



高松高等学校 2年
山本 育実

夢のような時間と一生の宝物

この派遣事業に参加できて本当に良かったです。このような素晴らしい経験を積む機会を与えてくださりありがとうございました。今回の経験で英語の力やコミュニケーション能力はもちろんのこと、人間性や人生観まで変わった気がします。みんなと一緒にしていれば大丈夫という受身的な考えでなく、自ら積極的に行動することが大切だと感じました。また、自分の意見を積極的に通すことは、何ら恥ずかしいことではないとも思いました。今まで、私は、自分がどう思うか、どう感じるかを考える前に、周りのみんながどう思うかどう感じるかを先に考えるようなところがあったと思います。しかし、このホームステイを通じて、ホストファミリーには、あなたはどうか？という質問をずっと突きつけられたような気がしました。自分というものをしっかり持つ、考えるということができるようになったと思います。

アメリカでは同年代の人たちと話す機会が多く、学校、政治、将来のことなど様々なことについて話しました。現地の高校生は私よりも日本の政治について詳しく、自分の意見をしっかりと持っていることに驚きました。彼らとの意見交換はとても刺激的で、考えさせられる点が多々ありました。また、意見交換するためには、多種多様な知識も必要だと思いました。裏付けされた知識の上で自分の意見というものが言えるのだということが分かりました。今まで、学校の授業でもなんとなく暗記していたもの、なんとなく理解していたことが生きた知識として身につけていけないといけないということも肌を持って感じました。

セント・ピーターズバーグ市は自然が豊かなことや海に近いことなどから高松市と似ているようで過ごしやすかったです。ホストファミリーの方々は心温かく、まるで家族のように接してくれたので、初めての土地でも安心して過ごせました。様々な場所に連れて行き手厚くもてなしてくれたことには感謝してもしきれません。

また、改めて高松という都市がどれだけ素晴らしい街だったかということも感じる事ができました。当たり前だと思っていることも皆さんの努力の上に成り立っているということも理解することができました。

私にとって国際交流とは個々の友情の上に成り立つ異文化、異民族間の大きな架け橋だと思います。今回出会えた人々との友情や感謝の気持ちを大きな架け橋の礎にできればいいと思いました。